



JCSS 0080

JCSS



校正証明書

依頼者 株式会社センサヤマモト キャリブレーションセンター
依頼者住所 愛知県名古屋市熱田区千年1-13-1
計量器名 デジタル圧力計
製造者名 横河電機株式会社
型式・器物番号 型式 : 767316(MT210) デジタル圧力計
器物番号 : 91R427182
校正方法 校正用標準器との比較測定による
校正用標準器 重錘形圧力天びん
本体番号 : 278 , ピストンシリンダ番号 : 0482
証明書番号 第135222号
本体番号 : 278 , ピストンシリンダ番号 : 0452
証明書番号 第135223号
デジタル圧力計
本体番号 : 12BA20120 K 証明書番号 15043
校正実施条件 2頁, 3頁のとおり
校正結果 2頁, 3頁のとおり
校正年月日 2015年5月19日 ~ 2015年5月21日

以上に相違ないことを証明する

2015年 5月21日

長野県上田市秋和1150番地

長野計器株式会社 事業本部 品質保証部

校正証明書発行責任者

品質保証部長 阿部正



- この証明書は、計量法第144条(第一項)に基づくものであり、特定標準器にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。認定シンボルは、校正した結果の国家標準へのトレーサビリティの証拠です。
- 発行機関の書面による承認なしに、この証明書の一部のみを複製して用いることは禁じられています。
- この証明書を発行した事業者は、JIS Q 17025 (ISO/IEC 17025:2005)に適合しています。
- この証明書は、ILAC (国際試験所認定協力機構)及びAPLAC (アジア太平洋試験所認定協力機構)のMRA (相互承認)に加盟しているIAJapanに認定された校正機関によって発行されています。この校正結果はILAC / APLACのMRAを通じて、国際的に受け入れ可能です。



JCSS 0080

JCSS

校正結果

	表示値 [kPa]	校正圧力値 [kPa]	拡張不確かさ [kPa]
昇圧	500.00	499.998	0.050
	1000.00	1000.013	0.075
	1500.00	1500.04	0.10
	2000.00	2000.08	0.13
	2500.00	2500.10	0.15
	3000.00	3000.07	0.18
降圧	3000.00	3000.07	0.18
	2500.00	2500.10	0.15
	2000.00	2000.09	0.13
	1500.00	1500.05	0.10
	1000.00	1000.023	0.075
	500.00	500.007	0.050

備考

- ① 測定圧力は、大気圧を基準とする気体ゲージ圧力である。
- ② 圧力媒体は、純窒素を用いた。
- ③ デジタル圧力計は、水平に設置した。
- ④ デジタル圧力計は、零調整を行い校正した。
- ⑤ デジタル圧力計の圧力単位は、kPa で校正した。
- ⑥ 圧力測定は、昇圧・降圧の往復を3回行った。
- ⑦ 各測定点では、サンプリング間隔1秒で20データを取得し、その平均値を測定点の値として、上記3往復の昇圧時・降圧時の平均から校正圧力値を算出した。
- ⑧ デジタル圧力計の圧力基準位置は、設置面より63mm高い位置とした。
- ⑨ 校正圧力値は、デジタル圧力計の周囲温度が23.1℃のときの値である。
- ⑩ 拡張不確かさは、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定されたもので、約95%の信頼の水準をもつと推定される区間を定める。

校正実施条件

温度 22.9℃~23.2℃、 相対湿度 40%~44%、 大気圧 946 hPa~956 hPa



校正結果

	表示値 [kPa]	校正圧力値 [kPa]	拡張不確かさ [kPa]
降圧	-20.00	-20.002	0.030
	-40.00	-40.002	0.040
	-60.00	-60.001	0.050
	-80.00	-80.002	0.060
昇圧	-80.00	-80.002	0.060
	-60.00	-60.002	0.050
	-40.00	-40.004	0.040
	-20.00	-20.004	0.030

備考

- ① 測定圧力は、大気圧を基準とする負の気体ゲージ圧力である。
- ② 圧力媒体は、純窒素を用いた。
- ③ デジタル圧力計は、水平に設置した。
- ④ デジタル圧力計は、零調整を行い校正した。
- ⑤ デジタル圧力計の圧力単位は、kPa で校正した。
- ⑥ 圧力測定は、降圧・昇圧の往復を3回行った。
- ⑦ 各測定点では、サンプリング間隔 1秒で 20データを取得し、その平均値を測定点の値として、上記3往復の降圧時・昇圧時の平均から校正圧力値を算出した。
- ⑧ デジタル圧力計の圧力基準位置は、設置面より 63 mm高い位置とした。
- ⑨ 校正圧力値は、デジタル圧力計の周囲温度が 23.0 °Cのときの値である。
- ⑩ 拡張不確かさは、合成標準不確かさと包含係数 $k=2$ から決定されたもので、約95 %の信頼の水準をもつと推定される区間を定める。

校正実施条件

温度 22.8 °C~23.1 °C、 相対湿度 43 %~44 %、 大気圧 952 hPa~952 hPa

— 以上 —